



花緒街大火

王寺駅北側の商店街、履物の卸・小売り商店が軒を連ねていた花緒街は、昭和 54 (1979) 年、大火に襲われました。道幅が狭く、消防車が入れず被害を大きくしました。



亀の瀬地すべり

1932

亀の瀬地すべりは、昭和 6 (1931) 年、王寺町と隣接する現在の大阪府柏原市で亀裂が発生したことにはじまりました。その後、被害が拡大し、亀の瀬を通っていた鉄道にも影響がおよびました。昭和 7 (1932) 年からは亀ノ瀬隧道 (トンネル) が不通となり、やむを得ず仮駅が設けられ、徒歩でしか通行できなくなりました。また、亀の瀬地すべりによる地面の隆起が原因で大和川の川水がせき止められ、同年 7 月には上流の王寺町藤井の住宅 25 戸が浸水するという被害が生じています。



57 水害

1982

昭和 57 (1982) 年の夏に発生した、通称「57 水害」は、台風にもなう低気圧が引き起こした豪雨により、大和川が増水、支流の葛下川が逆流・氾濫し、王寺駅周辺など中心市街地のほとんどが短期間で 2 度にわたり水没しました。町内の被害は、家屋の全壊 66 戸・半壊 174 戸、床上浸水 1,445 戸、床下浸水 272 戸にのぼり、緊急事態として災害救助法が適用される甚大な被害となりました。



あの日を忘れない
乗り越えた苦難

王寺町 100 年の歴史のなかには災害もありました。山からすべり落ちた土砂と川床の隆起が、大和川の流れをせき止めて水害をもたらした亀の瀬地すべりに、葛下川から水が溢れて役場や駅、電車、多くの住宅が浸水する大水害が発生した昭和 57 (1982) 年の通称「57 水害」。花緒街では、商店街のアーケードが焼け落ちるほどの大火災もありました。いくつもの災害を乗り越えてきたからこそ、今があるのです。